

かわの情報誌

よゑ

特集
～密着！河川行政の最前線！～

- ・福井県河川課の紹介
(福井県 土木部 河川課)
- ・神戸市の河川業務
(神戸市 建設局 防災部 河川課)

トピックス

- ・津波による犠牲者ゼロの実現に向けて
—津波から「逃げ切る！」支援対策プログラム—
(和歌山県 県土整備部 港湾空港局, 河川・下水道局)

2018 冬号

NO. 104

～密着！河川行政の最前線！～

3 福井県河川課の紹介

福井県 土木部 河川課

5 神戸市の河川業務

神戸市 建設局 防災部 河川課

トピックス

7 津波による犠牲者ゼロの実現に向けて

—津波から『逃げ切る！』支援対策プログラム—

和歌山県 県土整備部 港湾空港局 港湾漁港整備課 津波堤防整備室
河川・下水道局 河川課

季節の水辺風景

9 朝霧に包まれる冬の九頭竜川

福井県 土木部 河川課



水辺を楽しもう！

10 びわ湖疏水船就航記念 疏水ジェニックフォトコンテスト

京都市 上下水道局

インフォメーション

11 鴨川探検！再発見！第50弾

第12回 淡海の川づくりフォーラム参加団体募集！

12 企画展 南海高野線120年のあゆみ

—はじまりは大小路－狭山間—

(大阪府立狭山池博物館・大阪狭山市立郷土資料館)

13 京都・東山花灯路-2019

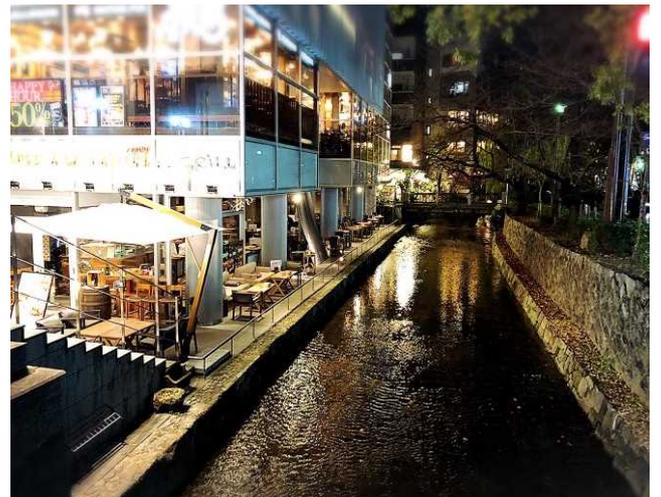


京都市の中心部を流れる高瀬川は、角倉了以・素庵によつて開削され、大正のはじめまで、約300年間、京都市内と伏見間の水運として利用され、2014年には開削400周年を迎えました。運河としての役割は終わりましたが、今でも四季のうつろいによりサクラとヤナギが彩りを見せ、京都ならではの風情ある河川となっています。

① 高瀬川



春の高瀬川



夜の高瀬川

福井県河川課の紹介

福井県土木部河川課

○ はじめに

福井県の河川は、嶺北地方は九頭竜川水系、嶺南地方は北川水系の一級河川に代表され、その他日本海に注ぐ南川や笙の川といった二級河川があります。主要な河川は、上流部が急峻な山地河道となり、下流平野部は沖積地の築堤河道となっています。

当課では、県が所管する一級・二級河川にかかる河川行政や下水道行政を担い、「河川管理」、「河川整備」、「ダム建設・足羽川ダム対策」、「下水道整備」の4グループ（以下、Gと略する）で構成されています。今回は、各Gの担当業務や所管する県内の注目箇所について紹介します。



福井県的主要河川

<河川管理G>

（担当業務について）

河川管理Gでは、予算、決算、交付金の受入など総務系の業務に、河川法・砂利採取法の許認可や、県営排水機場、排水ポンプ車などの河川管理施設の管理を担当しています。

（福井県のここに注目！）

県では足羽川の利活用特に力を入れています。足羽川は福井市中心市街地を流れる河川で、県と福井市がまちづくりの指針として定めた「県都デザイン戦略」の中でも、重要な水辺空間として位置付けられています。

そこで県では、周辺の幼稚園や公民館など66の団

体の参加を得て「まちなか足羽川会議」を組織し、意見交換会などを行った上で、構成団体と連携して、おもしろ自転車試乗会、カヌー体験教室、川下り体験などのイベントを実施しています。また、江戸時代に福井城周辺に橋がなかった頃の渡し舟を再現した「毛矢の繰舟」を運航し、多くの皆さんにご参加いただいています。



写真 「毛矢の繰舟」

<河川整備G>

（担当業務について）

河川整備Gでは、河川の整備事業や河川計画（河川整備基本方針および整備計画）の策定に関する業務等を担当しています。

（福井県のここに注目！）

現在、事業を実施している主な河川について紹介します。九頭竜川の最下流支川となる竹田川では、大規模な河道拡幅工事を実施しており、支障となる農業用排水機場の移設等について、管轄する他部局とも連携しながら事業を推進しています。福井市中心部を流れる底喰川では、住宅密集地であるため親水性にも配慮した護岸整備などを行っています。また、日野川支川の吉野瀬川では、下流ネック地点を解消する放水路が平成29年度に完成し、今後は吉野瀬川ダム建設と合わせて河道を整備していきます。平成30年度には、県を代表する観光地「大本山永平寺」の参道に並行する永平寺川の石積護岸が完成し、川と一体となった街並みづくりが行われています。



写真 永平寺川

<ダム建設・足羽川ダム対策G>

(担当業務について)

ダム建設・足羽川ダム対策Gでは、県が事業主体である河内川ダム、吉野瀬川ダムの建設にかかる業務や、国土交通省が事業主体の足羽川ダムの建設にかかる業務のほか、建設に伴う生活再建対策や地域振興策を担当しています。

(福井県のここに注目！)

河内川ダムは、若狭町に位置する多目的ダムです。これまでに堤体打設が完了しており、平成30年12月より試験湛水を開始し、ダムの安全性を確認しています。供用開始前のダムは今しか見られませんので、ぜひ見学に来てください。

吉野瀬川ダムは、越前市に位置する治水ダムです。これまでダム建設に伴う付替県道の整備などを実施しており、平成30年8月には県道19号武生米ノ線が開通しました。今後、ダムの転流工にも着手し、2025年度の本体完成を目指しています。

足羽川ダムは、池田町に位置する洪水調節専用ダムです。毎年秋には、足羽川の上下流交流事業として、池田町を訪ねるバスツアーを実施しています。



写真 河内川ダム(平成30年11月時点)

<下水道整備G>

(担当業務について)

下水道整備Gでは、下水道事業の予算・決算・交付金の受け入れなどのほか、下水道に関する各種計画の策定や、福井県が管理する九頭竜川流域下水道の事業実施・管理運営、および市町施行の下水道事業の交付申請・指導監督等を担当しています。

(福井県のここに注目！)

県内では、昭和23年に福井市が初めて公共下水道事業に着手し、現在、9市8町1事務組合で下水道事業を実施しており、平成29年度末の汚水処理人口普及率は95.7%(全国9位)、下水道処理人口普及率は79.6%(全国15位)となっています。

また、下水道の普及啓発やイメージアップ活動にも力を入れており、終末処理場の九頭竜川浄化センターでは、流域下水道区域内の小学生等を対象とした施設見学会や、夏休みにあわせて水をきれいにする仕組みや資源のリサイクルを学ぶ「水の探検隊バスツアー」を開催しています。さらに、センター内の芝生広場等を開放し、サッカーやグランドゴルフの練習や試合会場に活用していただいています。



写真 「水の探検隊」開催状況

○ おわりに

今回紹介した場所以外にも、県内には「三方五湖」や「東尋坊」といった名勝や、県立恐竜博物館など多くの魅力的なスポットがあります。また、県庁舎は福井城址にあり、「山里口御門」の復元整備などが近年行われ、歴史を感じる空間となっていますので、ご来訪の際には当課にも是非お立ち寄りください。

神戸市の河川業務

神戸市建設局防災部河川課 魚谷 拓矢

1. はじめに

神戸市には 5 つの水系に分類される河川があり（図-1）、一級・二級・準用・普通河川の合計で約 675km 流れています（表-1）。神戸市内の一級・二級河川は兵庫県が管理しており、準用・普通河川は神戸市が管理しています。

神戸市の中心市街地を流れる表六甲河川群は、小規模な河川ですが地形や土地利用の特性により、短時間に多量の降雨が流出することで水害や土砂災害が多い地域です。一方で、その他の水系は、郊外や山間部を流れる勾配が緩やかな河川が多いのが特徴です。

今回は、神戸市で行っている現在の河川業務について紹介します。



図-1 神戸市の流域

表-1 神戸市内を流れる河川の諸元

区分	一級河川	二級河川		準用河川	普通河川	計
		うち都市基盤河川				
管理者	県知事	県知事		市長	市長	
河川数	4河川	72河川	36河川	136河川	219河川	431河川
延長	35.5km	195.9km	69.9km	180.8km	262.0km	674.2km

2. 神戸市の組織

神戸市では、道路、河川、下水道、公園の整備・維持管理を建設局で行っています（図-2）。道路、河川、公園に関して、市役所の部署で予算管理や全市的な計画を策定し、市内 6 箇所の建設事務所で維持管理や整備工事を行い、市民サービスの向上に努めています（図-1）。河川の業務は、主に「建設局防災部河川課」および「建設事務所」で行っています。河川課は「管理指導係」と「計画調整係」の 2 つの係で構成されています。

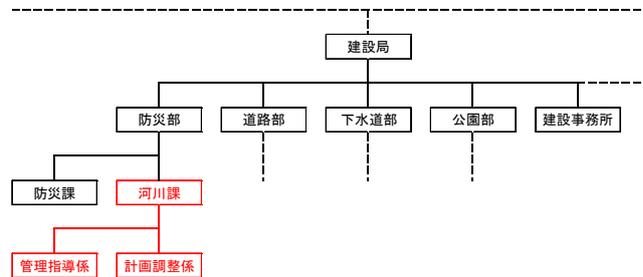


図-2 神戸市の組織（一部）

3. 河川の業務内容

3.1 河川の改修・補修計画

従来の河川改修を行うための計画に加え、既存ストックを活用した「流域貯留事業」を推進するための計画策定を進めています。従来の河川改修が様々な問題により実施できなかった未改修河川について、流域貯留事業を推進することで治水安全度の早期向上を図ることができます（写真-1）。



写真-1 既存ストックの活用（鎌ヶ谷川）

3.2 河川の改修事業

過去の水害を契機に創設された都市基盤河川改修事業により、二級河川の整備を行ってきており、事業を計画している 36 河川のうち、32 河川において整備が完了し、残りの 4 河川のうち、3 河川（妙法寺川・櫛谷川・伊川）の整備を進めている段階です（写真-2）。

また、準用・普通河川の改修についても、従来の河川改修と流域貯留事業による改修を平行して計画的に整備しています。



写真-2 都市基盤河川改修（櫛谷川）

3.3 河川の維持管理

河川および水路の草刈や浚渫、補修などの日常的な維持管理や豪雨などの災害対応を行っており、今年度発生した 7 月豪雨や台風 21 号などで被災した河川施設についても早期復旧を目指して取り組んでいます。

また堤防河川（延長約 4km）については、予防保全的な対策を行うために長寿命化計画を平成 30 年 5 月に策定しており、今年度より護岸・堤防の改修について拡充された「公共施設等適正管理推進事業債（長寿命化事業）」を活用しています。今後、重点的に点検を行っている掘込河川（約 168km）についても長寿命化計画を策定する予定です。

3.4 河川に関する協議

河川および水路に関する下記業務も行っています。

- ① 占用・改築・付替え
- ② 敷地の境界協定、払下げ、交換、寄付
- ③ 開発行為に伴う調整池（写真-3）の設置協議



写真-3 調整池（横谷川）

3.5 その他

ソフト対策として、「減災」の観点から増水の危険性をリアルに実感できる映像を提供して、市民のより迅速で安全確実な避難行動に役立てるとともに、「災害に対する意識」を高めることを目的に市内の一級・二級河川 22 河川 30 箇所にて河川モニタリングカメラを設置しており、パソコンやスマートフォンで映像をリアルタイムに誰でも確認することができます。また、小学校や自治会への出前講座を通して、河川の安全な利用に関する啓発活動を行うとともに地域のイベントにも参加しています（写真-4）。



写真-4 イベント（伊川）

4. さいごに

神戸市では、今回紹介した業務を河川課と建設事務所で連携しながら行っています。

また、神戸市のホームページには、今回紹介した業務以外にも河川に関する最新のニュースやハザードマップなどを掲載していますので、ご覧いただければと思います。

津波による犠牲者ゼロの実現に向けて—津波から『逃げ切る！』支援対策プログラム—

和歌山県 県土整備部 港湾空港局 港湾漁港整備課 津波堤防整備室
河川・下水道局 河川課

1. はじめに

和歌山県は本州紀伊半島の南西部に位置し、東西約 94 km、南北約 106 km に及び、総面積は 4,724.71 km² となっています。海岸線は約 651 km に及びリアス式海岸で、和歌山市から串本町までの紀州灘と、串本町から新宮市までの熊野灘の 2 つの沿岸からなっています。

台風の常襲地帯でもあり、過去には伊勢湾台風 (1959 年)、第二室戸台風 (1961 年) などの超大型台風が本県を襲い大きな被害を受けてきました。

また、紀伊半島は南海トラフに近く、地震発生から津波が到達するまでの時間が非常に短いという特性があるため、本県では防災・減災対策を人命最優先で総点検し、『何よりも守らなければならないのは人命である。』という考えのもと、災害による犠牲者ゼロを実現するため、ソフト対策とハード整備を早急に行っていくこととしています。

2. 和歌山県の津波対策

本県では、これまでも東海・東南海・南海地震の津波の発生に備え、平成 20 年 4 月に「津波から『逃げ切る！』支援対策プログラム」を策定し、「揺れたら逃げる」を啓発するとともに、様々な地震・津波対策を実施してきました。

しかし、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災において、国内で過去最大規模の地震と津波により、沿岸部を中心に甚大な被害が発生したことを受け、想定する地震・津波を見直すこととなり、「東海・東南海・南海 3 連動地震 (以下「3 連動地震」という。) の津波」を発生頻度の高い津波として、また「南海トラフ巨大地震 (以下「巨大地震」という。) の津波」を最大クラスの津波として、津波浸水想定を実施し、平成 25 年 3 月に公表するとともに、地震被害想定を行いました。



図-1 3連動地震・巨大地震の震源域図

この津波浸水想定に基づき、実際にどの地域が「地震発生から津波到達までに安全な場所へ避難することが困難な地域 (以下「津波避難困難地域」という。)」であるか、また、どのような対策を行い津波避難困難地域を解消していくかを明らかにすることがより重要であると考え、3連動地震と巨大地震の 2 つの地震により発生する津波から住民の命を救い、死者をゼロとするため、また経済被害を抑え早期の復旧・復興につなげるため、平成 26 年 10 月に新たな「津波から『逃げ切る！』支援対策プログラム」を策定しました。

津波避難困難地域は、避難開始時間、移動速度等の一定の条件や想定した津波到達時間に基づき、地域単位で避難先までの経路と距離を詳細に考慮し、抽出しています。(図-2, 3)

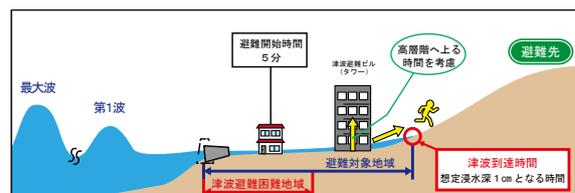


図-2 津波避難困難地域の検討条件

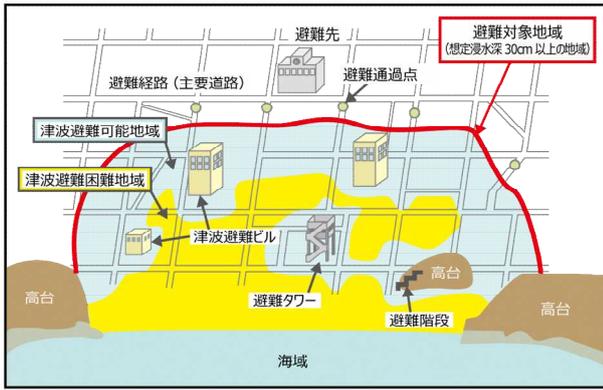


図-3 津波避難困難地域のイメージ

2.1 3連動地震の津波対策

3連動地震は、約90年～150年周期で発生していると想定されることから、住民の命と財産を守るため、津波の浸水が想定される地域において、防災教育・啓発、避難路・避難階段整備、津波避難施設整備、堤防・護岸整備など国・県・市町によるソフト対策とハード整備を総合的に概ね10年で実施することとしています。

特に、3連動地震の津波避難困難地域では、すべての住民が津波から避難できるよう、地域に応じて優先的、緊急的に整備を行うことで、津波避難困難地域を解消します。

沿岸市町では、高台移転や複合避難ビル等構造物の整備等による地域改造、避難経路の詳細な設定・周知及び早期避難の徹底、津波避難ビルの指定、避難路・避難階段の整備、津波避難施設の整備等を進めています。



写-1 公共施設の高台移転



写-2 津波避難タワー



写-3 海岸の護岸高上げ



写-4 河川の護岸高上げ

一方、これらの避難施設の整備等の対策のみでは津波避難困難地域の解消が困難な地域については、津波第1波に対しての海岸や河川堤防等の嵩上げや耐震化を行うことで、避難時間を確保します。(図-4)

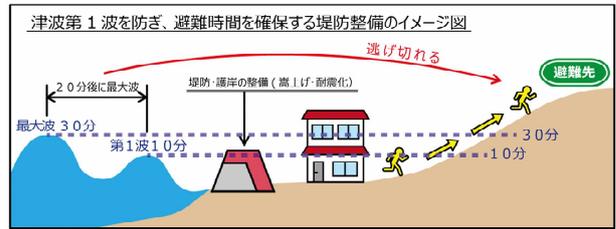


図-4 津波第1波対策の整備イメージ

2.2 巨大地震の津波対策

巨大地震は、実際に発生したことを示す記録が見つからないものの、発生すれば極めて甚大な被害が予想されることから、津波から「なんとしても逃げ切る」ためのソフト対策を実施することとしており、沿岸市町が「南海トラフ地震津波対策検討協議会」を設置し、地元住民など関係者で、ソフト対策の具体化について、すべての住民の命を守るための検討を進めています。

また、本県では巨大地震による津波の発生時の避難体制の強化を目指し、「津波防災地域づくりに関する法律(平成23年法律第123号)」に基づき、県内沿岸19市町において、平成28年4月に津波災害警戒区域を指定したところです。

3. おわりに

本県は地形的・気象的な特性ゆえに、度重なる災害を経験し、多くの尊い人命を失ってきました。津波による犠牲者ゼロを実現するためには、そのような過去の災害から教訓を得ることで将来起こるであろう災害に備えることが重要です。

今後も、自助・共助・公助の精神に則り、一人ひとりが自らの命を守るための努力を行うとともに、地域での助け合いや国・県・市町によるハード・ソフト対策を総合的に推進することで、津波による犠牲者をゼロとし、経済被害を抑え早期の復旧・復興につなげるための対策を実効性のあるものとする事で、安全・安心な県民の生活を実現します。



朝霧に包まれる冬の九頭竜川

福井県 九頭竜川

九頭竜川は、幹線流路延長16km、流域面積は2千930 k^2m^2 で県土面積の約七割を占める県内最大の河川です。

写真は山間渓流部から福井平野に流れる中流域（勝山市）で、砂州による河畔林が形成されています。寒風が吹き抜ける冬の晴天時には、川辺に朝霧が立ち込めて、雪景色がより一層幻想的な雰囲気となります。

びわ湖疏水船就航記念

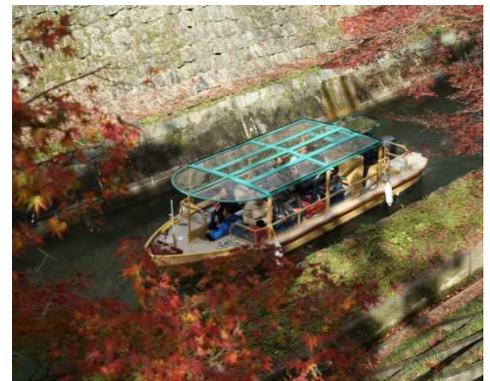
#そすいいね

そすい
**疏水ジェニック
フォトコンテスト**
KYOTO-OTSU



**琵琶湖疏水エリアは、フォトジェニックスポットの宝庫！
訪ねて、巡って、撮って、「#そすいいね」なステキ写真を投稿しよう！**

明治23年（1890年）に竣工して以来、琵琶湖と京都を結び、街の発展に大きな功績を残してきた琵琶湖疏水。その沿線には、明治期の息吹を感じられる土木遺産や、四季を彩る風景、思わず写真を撮りたくなるアートやグルメに出会えるスポットが点在しています。琵琶湖疏水エリアの「#そすいいね」なスポットをみつけて、みんなにシェアしよう！



応募期限 2019年1月31日（木）まで

応募方法

Twitter, Instagram から応募

公式アカウント「@biwakososuisen」をフォローのうえ、ハッシュタグ「#そすいいね」と「#エリア名（岡崎・蹴上・山科・大津のいずれか）」を付けて、写真を投稿！

専用フォームから応募

疏水ジェニックフォトコンテスト公式ウェブサイト（<http://photocon.biwako-sosui.jp/>）にある専用フォームから、「エリア名」を選択して写真とメッセージを投稿！

賞品 大賞：商品券（10万円） 部門賞（建築・アート／景色／水辺／グルメ）：商品券（1万円）
さらに、優秀作品は京阪電車京津線にてポスター掲示！

結果発表 2019年2月下旬ごろに公式ウェブサイト上で発表

上記のほか、応募規約などは公式ウェブサイトをご確認ください。

そすいいね

検索



「琵琶湖疏水」の見どころ情報は、「びわ湖疏水船」ウェブサイトもチェック！！

かつて利用されていた舟運を復活させ、2018年春から「びわ湖疏水船」として本格運航を開始しました。公式ウェブサイトでは、琵琶湖疏水の歴史・見どころや、ふるさと納税のご案内など、多彩な情報を掲載していますので是非チェックしてみてください！

びわ湖疏水船

検索

鴨川探検！再発見！第50弾

日時：2月17日（日） 午前10時～12時

場所：鴨川(京都市北区、北山大橋周辺)

<概要>

京都府では、多くの人に親しまれている鴨川の魅力を改めて発見し、治水や防災、川への理解を深め、河川愛護や自然環境保全への関心と主体的な取組の輪を広げるため、“鴨川探検！再発見！”を開催しています。

第50弾となる今回は、「冬の鴨川 水辺の野鳥観察会」として、鴨川に飛来する野鳥を観察します。



・交通機関：最寄り駅京都市営地下鉄「北山」駅下車
徒歩10分

・参加費：無料

・問合せ先：京都府建設交通部河川課

TEL 075-414-5288

<http://www.pref.kyoto.jp/kamogawa/index.html>

第12回 淡海の川づくりフォーラム参加団体募集！

日時：2月3日（日）9：30～16：30

場所：滋賀県危機管理センター（滋賀県大津市京町4丁目1-1）

淡海の川づくりフォーラムでは『川や水辺と私たちのいい関係』を築いていくための参考となる“きらり”と光る活動を公開討論によって探し、その年いちばん輝く活動をみんなで表彰します。参加していただく団体みなさまには、団体“いちおし”の活動をA1サイズのパネル1枚にまとめて発表していただきます。

活動の楽しさや苦労、失敗を乗り越えた時の喜びを仲間たちと共有しませんか？

きっと素晴らしい出会いや活動のヒントがあるはずです。ぜひご参加ください！



・最寄駅：JR大津駅・京阪島ノ関駅から徒歩5分

・問合せ先：第12回 淡海の川づくりフォーラム

実行委員会事務局（滋賀県 広域河川政策室内）

TEL 077-528-4270

E-Mail ha04@pref.shiga.lg.jp

※ 申込み方法等、詳しくはこちらをご覧ください

<http://www.pref.shiga.lg.jp/h/ryuiki/foulamu/forum-top.html>

企画展

南海高野線 120 年のあゆみ — はじまりは大小路—狭山間—

(大阪府立狭山池博物館・大阪狭山市立郷土資料館)

■会期：2018年12月8日(土)～2019年1月27日(日)

■場所：大阪府立狭山池博物館・大阪狭山市立郷土資料館(大阪府大阪狭山市)

入館無料

<概要>

南海電鉄高野線は、高野鉄道が明治31年(1898)1月26日に大小路駅(堺東駅)～狭山駅間で開通したことに始まり、平成30年は、明治維新150年、高野線開通120周年にあたります。近代化の旗手となった鉄道の開通は、南河内の人びとの行動範囲や暮らしを変え、沿線地域の都市化の原動力となりました。本展示では、大阪狭山市と周辺地域を中心に、高野鉄道がどのように人々に影響を与えてきたのか、紹介します。

【企画展ホームページ http://www.sayamaikehaku.osakasayama.osaka.jp/_opsm/exhibition/27.html】

- ・交通機関：最寄り駅：南海電鉄高野線「大阪狭山市」駅下車、西へ700m
- ・問い合わせ先

大阪狭山市教育委員会事務局 教育部 歴史文化グループ

TEL 072-366-0011 (代表) FAX 072-367-6011

大阪狭山市立郷土資料館企画展 明治維新150年・高野線開通120年記念

南海高野線120年のあゆみ

— はじまりは大小路—狭山間—



2018.12.8.土 - 2019.1.27.日

大阪府立狭山池博物館 特別展示室

主催 / 大阪狭山市・大阪狭山市教育委員会 協力 / 大阪府・南海電気鉄道株式会社・南海電車愛好会 後援 / 大阪府教育委員会・東北高速鉄道株式会社

!! 予告 !!

大阪府立狭山池博物館では、今年度も土木遺産展を開催します。今年度のテーマは“橋梁”。

平成30年度春季企画展

土木遺産展 — 関西の橋梁めぐり —

会期：2019年3月16日(土)～5月12日(日)

場所：大阪府立狭山池博物館



京都・東山花灯路-2019

日時：平成 31 年 3 月 8 日（金）～3 月 17 日（日） 雨天決行

点灯時間 午後 6 時～午後 9 時 30 分

場所：京都市内東山地域

白壁や木々にゆらめく陰影，石畳や門前町の店頭に彩りをそえるはんなりとした灯りなど，東山地域の地理的諸条件を生かし，露地行灯などの「灯り」といけばな作品による「花」の演出により，早春の季節感を魅力的に表現します。



法観寺（八坂の塔）



いけばなブロムナード

ロームが灯す

「灯りと花の路」

日本情緒豊かな陰影のある、LED 電球を使用した露地行灯などの「灯り」とボリューム感のあるいけばな作品の「花」で演出し、思わず歩きたくなる路を創出します。



竹灯り・幽玄の川

・開催エリア：東山地域

（北は青蓮院から，八坂神社，法観寺，南は清水寺までの東山散策路と周辺寺院、神社，文化施設等）

・主催：京都・花灯路推進協議会

・お問合せ：京都・花灯路推進協議会事務局

TEL：075-212-8173（平日 10：00～18：00）

・ホームページ：<http://www.hanatouro.jp/>

写真提供：京都・花灯路推進協議会

編集後記

さらさ 2018 年冬号の編集担当の京都市建設局土木管理部河川整備課の上田です。各府県市のご担当者様におかれましては，ご多忙の中，執筆にご協力いただきありがとうございました。さらさを通じて，河川行政や水に関するイベント等について，多くの方により興味を持っていただく機会となれば幸いです。